

小山谷津・妖怪図鑑2 ～主に、クモ・淡水貝編～

平成29・30年度の大椎小とあすみ小の5年生 & 赤シャツおやし

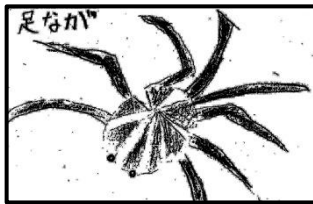
小学校から程近い場所。こんこんと清水湧き、枯れることなく行き渡る谷津田。そこには町では会うことの無い数々の生物達が棲息しております。体験学習で訪れる子どもたちは、冷たい泥に足をとられながらも、懸命に田んぼ作業に勤しむのです。それは、正に、未知の体験とともに、未知の生物達との遭遇。前号(No.203)に引き続き、谷津田で遭遇した生物達を妖怪と称し、ご紹介します。

【平成29・30年度、小学校田んぼの自然観察・おさらい】

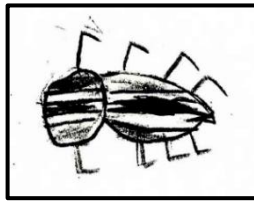
小山谷津では、小学生が一年間通して稲作を体験するという体験学習プログラムが実施されております。田んぼ作業と並行して、その周囲に生息する生物や、植物を観察する「自然観察」が実施されます。29年度より「見つけた生き物の名前を自分でつけてみよう」との試みを取り入れると、子どもたちはユニークな命名とともに、多様な姿をした生物達を次々描き出し、子どもたちのフィールドにおける衝撃の第一感！が伝わって参りました。今回は「クモ・淡水貝編」をお伝えします。(脚注は「証言番号 命名 証言者 コメント」の順です。)

【妖怪図鑑・クモ】★水面を非常に素早く移動する。。巨大なクモ？

子どもたちに最も注目を集めた生物が、水面を素早く移動する普段目にするよりも大きなクモであったと言えるでしょう。どの証言も水面を素早く動く様子を記述しています。またその速さのため、じっくりとした観察も難しく、様々な姿が描かれた様です。



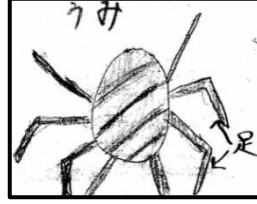
証言1 足なが
(Y.T) H30 あすみ
・足が5cmくらいあった。



証言2 水面歩きグモ
(H.S) H29 あすみ
・中央に黒と白の線、お腹は茶色



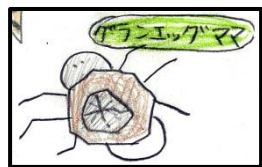
証言3 ピックモ
(M.Y) H29 あすみ
・水面を忍者の様に走る、真ん中に白い線。



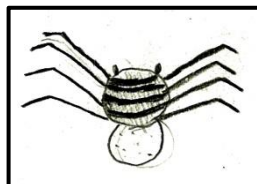
証言4 うみ
(M.F) H30 あすみ
・この足があれば、海でも長く泳げると思う。



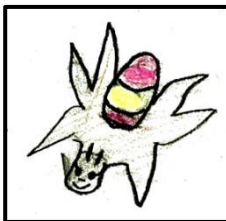
証言5 オレンジヤ
(T.K) H29 大椎
・オレンジ色のデカイクモ。白色、縞模様の似た様なクモがいた。



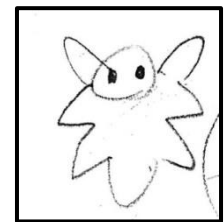
証言6 グランエッグママ
(K.Y) H29 大椎
・卵を抱える大きなクモ。小さなクモにも卵を抱えるものが居た。



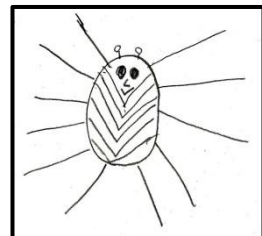
証言7 エッグママ
(Y.Y) H29 大椎
・大きな卵を抱えていた。



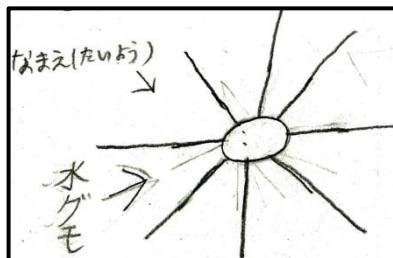
←証言8
エッグママ
(Y.T) H29 大椎
・卵をしょっていたのでお母さんかと思いました。どこかへ大変そうに運んでいました。※笑い顔ですね。



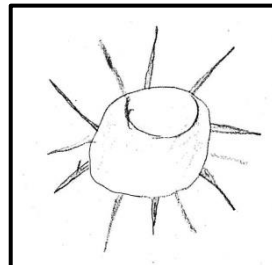
証言9 水ぐも
(M.Y) H30 あすみ
・クモの特徴で、田んぼの中にいる。すぐに逃げるのでつかまえるのが難しい。※証言8と姿がよく似ていますね。



証言10 くも
(Y.M) H29 大椎
※こちらも笑い顔。



証言11 たいよう
(F.K) H29 大椎
・明らかに足が長い。



←証言12 サンシャイン
(A.K) H30 あすみ
・太陽の形をしている。最初は何か分からなかったけど、クモと分かった。

※ 証言11と12はそれぞれ全く独立に太陽の形に例えています。証言10も似たような放射状の脚が描かれ、興味深いところです。

☆正体は？ イオウイロハシリグモ (図1)

主に田んぼの中に居て、水面をを素早く移動する脚の長い大きなクモ。体の色は、オレンジ色、縞模様、白など様々。たとえば、イオウイロハシリグモが浮かびます。捕虫のための網を張らず、水面を積極的に移動し、昆虫、イモムシ、時には小カエルなどを餌にする姿も観る。産卵したメスは卵が詰まった体の割に大きな

卵塊を抱え行動する(証言6~8など)。証言5が最も典型的な「イオウイロ」と言えるでしょうか?、一方で証言1~5, 7の様に、体の模様が、放射状だったり、横縞だったり、本数も色々だったり、揺らぎが起こっている所、強い印象・変異の多さ・素早い動き故とも言えるかもしれません。当方は、目を反らした瞬間、模様が変わって見えた「変わり身の術!」に直面したこともありますよ! 観た機会は異なっても、同じような印象で描かれた証言もいくつかあり興味深いですね(例えば証言8と9、10~12など)。なお、水面に居ることから「ミスグモ」の命名も多く観られましたが、これは、唯一水中生活をする珍しいクモに与えられた命名なので「ここには居ない別のクモだよ」と追記しておきます。

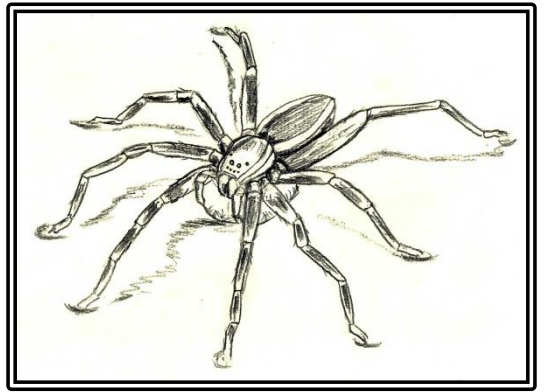
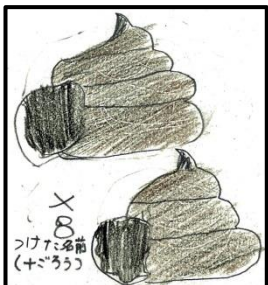


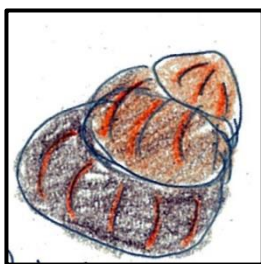
図1 卵塊を抱えるイオウイロハシリグモ

【妖怪図鑑・淡水貝】★動かない! 動いている? 生きている!

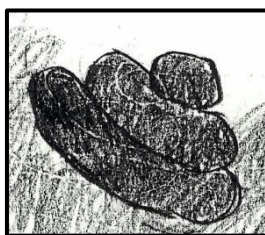
カエル、クモ、に次いで証言が多い生物は、タニシの類。クモやカエルと異なり一見、転がっているだけの様でも、よく見ると動きだす。同じような形のものが大小様々。確かに不思議に感じます。



証言13 十ごろう (Y.N) H29 大椎
・大きなタニシが10匹ゴロゴロしていたので。。。
※左巻きかも。



証言14 小さいタニシ (K.O) H29 大椎
・絵を描くのが好きなので、イラストも描いてね、と言われて嬉しかった。
※マルタニシの特徴が良く描かれている。



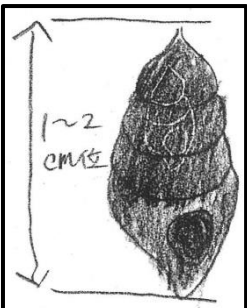
証言15 ブラックソフトクリーム (M.Y) H29 あすみ
・全身真っ黒の貝の種類見た目は黒い塊だけど、ゆっくり動く。



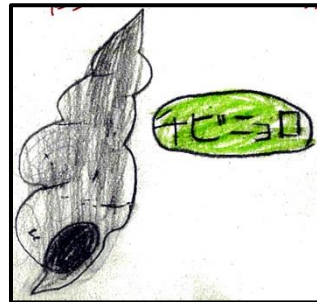
証言16 貝 (T.K) H29 大椎
※ハシリグモの絵(証言5)に併記。一見優れてそれとわかる記号の様!



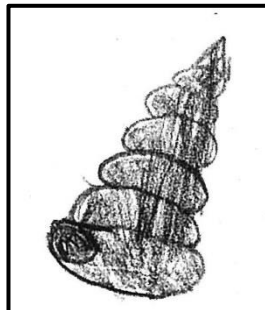
証言17 貝? (E.S) H29 大椎
※オタマジャクシとともに複数併記。非常に不思議な形状! 殻表面のあれ具合を表現したのかも?



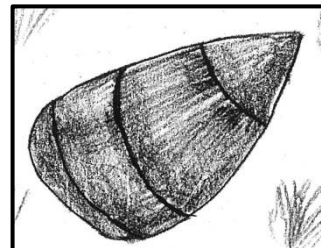
証言19 チョココロネ (A.T) H30 あすみ
・黒と茶が混ざった色、大小たくさん居た。
※カワニナらしい絵!



証言18 チビニョロ (K.Y) H29 大椎
・穴から体が少し出ているのでチビニョロにした。
※蓋の隙間を良くみていますね。



証言20 ぐるりん (S.M) H30 あすみ
・ぐるぐるまきになっていて小さくてかわいくて面白かった。
※左巻きかな?



証言21 タテマキ貝 (M.Y) H29 あすみ
・秋になって生きものが少なくなって来たなか、たくさんいた。一歩進めば2匹くらい。※カワニナは一年通して観られる。

☆正体は? オオタニシ、マルタニシ、カワニナ(図2)

小山の谷津田に観察される主な淡水巻貝の類は上記3種が上げられます。図鑑などではオオタニシの成貝は7cmにも達するとありますが、そこまで大きな個体はまれで、大体2~4cm程。カワニナはタニシより小さく尖った姿、大きいものでも3cm程。タニシにはしっかり閉まる蓋があり、カワニナにも蓋はあるものの小さくしっかり閉まらないので、蛍の幼虫の恰好の餌食となってしまうことが考えられます。タニシの多くは冬に土中に潜り冬眠しますが、カワニナは通年観られます。恐らく証言13~17がタニシ、19~21がカワニナと思われます。何れも、右巻きに殻を発達させますが、左巻きに描かれたものや、巻き数が多いもの(証言20)もあり、良く観察できる割に、印象が薄く、目立たないことも生存戦略なのかもしれません。

【終わりに】感性の爆発! 妖怪はまだまだ登場します!



図2 左から、オオタニシ、マルタニシ、カワニナ



里山たんけんレポート

第228回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2019年1月6日(日) 晴→曇

正月、恒例の鹿島川合流部まで巡りました。アズマネザサが谷津田内に進出しているところはますます繁茂し、下流部の従来のU字溝際の路は刈払機で刈っても通り抜けることは困難になっていました。

一方、鉄塔保守のために歩いたと思われる路がヨシ原の中に続いているところがありそれらも利用して合流部まで出ました。キジ3羽が足もとから飛び立ち驚かされたり、ブッシュ内ではアオジが、合流部ではカシラダカやカワラヒワの大きな群が見られました。鹿島川ではクサシギやキセキレイも見られ、林縁にハイタカの姿もありました。木にとまったカシラダカの群の中に今年は姿が少ないツグミも1羽いました。帰り広場まで戻ったところでノスリが向かいの斜面林にとまってたっぶりサービスしてくれました。鳥は21種を観察しました。



霜にうたれながらもタネツケバナ、コハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザなどは花をつけていました。フユノハナワラビも健在でした。(参加 大人10名、報告・写真 網代春男)

第231回 下大和田 YPP「どんと焼きと昔あそび」

2019年1月12日(土) 曇・小雨



どんよりした空模様でしたが準備中にポツポツ降ってきました。残念ながら昔ながらの人手による火起こしは断念しました。かまどからの火を移してしめ縄や正月飾り、書き初め、田んぼを守ってくれたかかしなどを炊き上げ、無病息災、豊穰を祈りました。たくさんのお餅とあんこの提供がありお汁粉や餅入の味噌汁が振舞われました。

盛大な焚き火とで身体の中からも外からも暖められました。雨は大降りにはならなかったものの降り続き昔あそびは行いませんでした。恒例のボートレースだけ行い、入賞者には賞品の竹トンボが送られました。

(参加 大人21名、小学生13名、幼児2名
報告 網代春男 写真 田中正彦)

森と水辺の手入れ —— 森の下刈り・竹の切り出し ——

2019年1月20日(日) 曇

丘の上の広場の草刈りと林内の落ち枝などの片付けをしました。丘の上の崖際にはクワなどが盛大に生えてきていて刈払機では刈れないものはノコギリで切るなどしてきれいにしました。

林内の東側の奥の方では落ちた枝の片付けなどを行いました。とてもさっぱりきれいになりました。

(参加 大人6名 報告・写真 網代春男)



第168回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

2019年1月26日(土) 晴

畦と暗渠の整備をしました。日向で作業をしたら、お日様がぽかぽか暖かく、暑くなるほどでした。5年生の小学生が谷津田だよりを持ってお手伝いに来てくれました。大人以上に一生懸命動いてくれて、おかげでとってもきれいになりました。(参加 大人6名、小学生1名 報告・写真 たんぼぼ)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月 6日 あざみ谷津畦をイノシシが掘った跡。(たんぼぼ)
- 1月 9日 あざみ谷津にヤマムユガのマユのようなもの。(たんぼぼ)
- 1月 20日 アオジ、モズ、シジュウカラ、アオサギ。(赤シャツおやじ)
- 1月 23日 畦の手入れの際、土の中で眠っているあかがえるに会う。(たんぼぼ)
- 1月 26日 チョウゲンボウ、マヒワ、アオジ。(赤シャツおやじ)
- 1月 27日 コジュケイの群れ、カワラヒワ、マヒワ、アオジの群れ。(赤シャツおやじ)



ヤマムユガのまゆ? 撮影 たんぼぼ

下大和田

- 1月 4日 ハヤブサが林縁にとまっていた。谷津田に現れるのは珍しい。(網代)
- 1月 20日 イノシシの足跡がYPP 田の畦にあった。幸い畦を掘られてはなかった。(網代)
- 1月 30日 ニホンアカガエルは未だ産卵していない(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなど思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意:**
- ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。
 - ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
 - ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
 - ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

林内の下刈りなどをします。

- 日時:** 2019年2月17日(日) 9時45分~12時 ☆雨天中止
- 場所:** 千葉市緑区下大和田谷津
- 集合:** 現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413 までご連絡ください。
- 交通:** J R千葉駅 10番成東あるいは中野操車場行きちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発 8:25、8:40 など、所要時間 45分>料金 540円
- 持ち物:** 弁当、飲み物、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、敷物
- 主催:** ちば環境情報センター

▼第230回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

ニホンアカガエルの卵塊数カウントをしながら春の兆しを求め、谷津を巡ります。

- 日時:** 2019年3月3日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行
- 場所:** 千葉市緑区下大和田谷津 **交通:** (同上)
- 集合:** 現地。初めて参加の方はご連絡ください。(同上)
- 持ち物:** 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物。
- 参加費:** 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催:** ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム

▼第169回 小山町YPP「あぜの整備」など

来年度の米づくりに備えて、田んぼのあぜの手入れをします。

- 日時:** 2019年2月17日(日) 11時~ ☆小雨決行
- 場所:** 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
- 持ち物:** 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。
- 参加費:** 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催:** ちば環境情報センター

■編集後記

今号では、前号に引き続き、小学校の体験学習で子どもたちが出会った生物達の姿を紹介しました。不思議な生物が描かれますが、それらを並べて良く見ると、深い背景が観えてくる様。なにより、子どもたちの感性は素晴らしい!

今の谷津田はすっかり静まり返り、1月初旬には、小山の谷津田は厚い氷に閉ざされました。それでも、良く観察すると、氷の下、じっとして潜む生物も存在しております。1月も下旬に入ると、少しずつ、氷の厚みが薄く変化し、春の足音を感じます。2月には、ニホンアカガエルの産卵など春の便りを報告できることでしょう! (赤シャツおやじ)



凍った田んぼに立つ (1月5日、小山谷津)